

午後 試験

問 1

出題趣旨

多くの企業では、ERP システム導入などによって企業活動に関するデータが統合的に管理されるようになってきた。このような背景の中、近年、企業活動の様々なデータをできるだけリアルタイムにとらえ、その活動状態を的確、迅速に評価し、次のアクションに結びつけるための業績評価指標を総合的に取り扱うシステムの重要性が増している。

本問は、このシステムの立案に際し、システムの目的を達成するため考えなければならないデータ収集・加工・提供の仕組みについて、どのような点を重要と考え、工夫をしたか、具体的に論述することを求めている。

本問では、論述を通じて、システムアナリストに必要なシステムの立案能力や経験、洞察力、行動力などを評価する。

問 2

出題趣旨

国内外でビジネスを展開する企業で、統制指針を作成せずに国ごとに情報システムを導入すると、業務連携や運用面で不具合が発生することがある。このようなことを避けるために、情報システムに関する統制指針が必要になる。

本問では、国ごとの実態調査・分析を踏まえて、標準化すべき業務プロセス、それに伴って必要となる業務システム機能・データ資源などを明確にする上で重要と考えた点、及び統制指針を定着させるための工夫について、具体的に論述することを求めている。

本問では、論述を通じて、システムアナリストに必要な情報システムの統制指針の作成能力や経験、分析力、洞察力、行動力などを評価する。

問 3

出題趣旨

業務プロセス見直しのアプローチの一つに、“あるべき姿”に基づいた改革がある。

本問は、部門間にまたがる業務プロセスの改革を実施する際の“あるべき姿”と現状とのギャップの克服・解消のため考えなければならない、ギャップの原因となっている本質的な問題点の把握と対処、情報技術の最適な活用、トップマネジメントの関与などの具体的な対策を論述することを求めている。

本問では、論述を通じて、システムアナリストに必要な業務プロセスの改革に関するスキルや経験、部門の壁を超えて改革のねらいを浸透させる行動力などを評価する。